

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2172400273
法人名	大和産業株式会社
事業所名	グループホーム垂井 だいわ福寿の杜
所在地 (電話番号)	〒503-2123 不破郡垂井町栗原372-1 (電話) 0584-23-0978

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成20年2月9日

【情報提供票より】(19年12月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 30 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.2 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	有() 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 200,000 円) <input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無		<input checked="" type="radio"/> 有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,050	円	

(4)利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西美濃厚生病院、あいほら医院、カワサキ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム垂井だいわ福寿の杜は、垂井町の町並みから少し離れた民家の一角にある1階と2階に合せて2ユニットを有するホームである。訪問するとほっとするような雰囲気で見守る施設長の人柄が職員の応対にも現れているようであった。利用者と共に家庭的な雰囲気の中で和気あいあいという姿勢のなかにも、お互いを尊重することを意識しながら、利用者一人ひとりの個性に合わせた支援を目指している。医療面でも連携が図られ充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点は2点あったが運営に対する意見やケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。漂白剤や洗剤管理については保管場所、方法等のマニュアルを作成した。研修計画書を作成し全職員が参加出来るようにした。更なる地域密着型サービスの向上に向けた取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットで現状をありのままに受け止め、評価した。このことは日々のケアを振り返る良い機会となった。その後、サービスの視点に沿って、利用者の特徴を踏まえ、皆で話し合いながら積極的に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では利用者の状況やグループホームの情報提供を行いサービスの向上に努めている。会議の内容は記録に残され職員会議等でも検討され活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口は施設長になっている。また外部相談窓口もあり、月一回家族との連絡も取られている。面会時には出来るだけ希望や意見を聞き運営に反映されるよう努力している。
重点項目④	利用者の日常における方針は普通の一人の人間として暮らせるよう利用者の希望や能力に合わせて支援されている。自治会加入を活かし、回覧板等で地域の活動や行事を知り地域の一員として地元の人々との交流に努めて行かれるよう期待したい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は地域の中で利用者が楽しく明るく、一緒に支えあうケアを掲げ、事業所独自のケア理念を述べている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念に対する考えを日常のサービスの中で話し合いながら共有し、実践している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行政や小学校からの誘いで敬老会や運動会には参加した事がある。自治会に入会しているが地域の行事が分らず参加していない。	<input type="checkbox"/>	自治会加入を活かし、回覧板等で活動や行事予定を知り、地域の一員として地元の人々との交流に努めて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット毎に評価し、具体的な改善目標を掲げ評価に対する理解を深めている。また、具体的な改善に取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回と、定期的に利用者の状況やサービスの提供を行いサービスの向上に活かしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは会議以外でも常に連絡や相談、話し合いが来ている。「福寿の杜」新聞の発行のつど町役場に届けていてホームの状況を理解してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりや健康状態を毎月報告している。金銭管理等の報告、写真も同封している。その他面会時にも報告し、2ヶ月毎の新聞も送るなどいろいろな機会を利用して利用者の様子を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設長になっており家族の意見を運営に反映させている。外部の相談窓口も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や施設長は離職は利用者にとってダメージが大きい事を認識し、職員のさまざまな相談に乗る等して異動や離職防止への配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門的な知識や技術の習得が出来るよう、事業所内外の研修を受ける機会を設け、参加できなかった職員に対しても共有できるよう研修報告もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、意見交換や情報交換がなされサービスの質の向上に努めている。管理者は会議等で同席した同業者と話し合いの機会もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学に来てもらい、希望があれば体験入所にも対応している。来られた時には他の利用者に紹介するなど、ホームや利用者と馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念の中にお互いに支えあうケアがあり生活歴や生い立ち等を考慮しつつ、普通の暮らしの中で利用者と職員が支えあう関係作りに重点を置いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に利用者や家族の思いや希望を取り込んで介護計画の立案している。さらに面会時やいろいろな場面で利用者や、家族の意向を記録し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者が出来ること、興味あることなどを考慮して一人ひとりに合った計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のフロー会議において職員全体でケアプランのモニタリングをおこない、状態の変化が生じたときは本人、家族、必要な関係者との話し合いをして現状に即した計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた通院介助やふるさと訪問、又理美容の出張等がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望されているかかりつけ医を大切にしている。月2回の協力医師の往診があり、必要時は専門の医療受診につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者の支援を経験している。本人・家族の方針を入所時に、入所時に聞けなかったときにはその後早めに聞き、主治医と連携のもと職員全員で共有した対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレにはカーテンや鍵を工夫して付けてあり・入浴・食事等において利用者一人ひとりの尊厳を大切に、傷つけないようにプライバシーに関する配慮をしている。面会簿については一人一枚の記入として個人情報の保護に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりに合わせた生活の支援がされ、朝は個々の起床状態に合わせて食事支援がされており、大まかな一日の流れはあるが、その人がしたいことをしてもらえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように食べたい物を聞き、時には外食にしたりメニューを変更したりしながら食事の準備や配膳、盛りつけなど出きる範囲で利用者と共にこない、職員は利用者と一緒に食事をしてさりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は清潔面を考え週3回は入ってもらえるように支援している。拒否される方には早めに声をかけるなどその人に合わせた支援をしている。		
(3) 生活の質を高めるための支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や歌、ぬりえなど楽しみとなるよう「施設長」の賞を作り表彰したり、失語症の方にはカードを作り繰り返し支援することにより会話ができるようになった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出きるだけ外出できるよう ドライブしながらデパートへ行ったり、買い物をしたり、散歩をするなど色々工夫しながら希望に添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけないようにしている。利用者の行動には見守りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回の避難訓練をおこなっている。消火器や避難路の確保、設備点検を定期的におこない、非常用食料・備品を準備している。地域の方々への働きかけは出来ていない。	○	地域の方の協力が得られるよう さらなる働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し献立に取り入れながら 栄養のバランスにも配慮している。食事形態も配慮され、食事・水分摂取量の記録がされ、不足しているときは医師の指示により経腸栄養剤を飲用する支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた家庭的な環境の共用空間であり、みんなが輪になりくつろげるスペース、畳の空間もあり 思い思いの過ごし方が出きる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人らしく 在宅で使い慣れた家具や仏壇を持ち込まれている方もあり、それぞれの状況に合わせた居室となっている。		